

## 伊勢神宮に御灯明油奉献

### 式年遷宮「遷御」で点灯

太田油脂



太田油脂は23日、伊勢神宮の第62回式年遷宮行事に献納する椿御灯明油「恭奉浄油」の奉献出発式を執り行った。同社が式年遷宮に椿御灯明油を奉献するのは前回に続いて2回目。当日は関係者、来賓など約50人が神事に参列した。

椿御灯明油「恭奉浄油」



太田社長

は、式年遷宮のクライマックスである御神体を新

宮殿で最初に灯される唯一の灯りとして、また

宮殿に遷す「遷御」の際に灯されるもの。20年に一度の式年遷宮の年は、

新宮殿を汚さぬよう油煙が少ない椿油が選ばれている。今回、太田油脂では国産椿（伊豆諸島産）の実から搾った特別な御灯明油（8kg缶木箱入り）2缶と灯心10袋（20束）を奉献した。

あいさつに立った太田健介社長は「このたびは最高の原料を集め、最高の技術を駆使し、最高の製品が出来上がった。20年に一度、式年遷宮で御灯明油『恭奉浄油』を納めさせていたたくことは、わが社にとっても大変な誇り。また、式年遷宮の目的の一つである『事業の継承』という点で、当社にとっても大切なコト、モノを伝えていく大事な行事である。これからの20年、40年、100年、地域の皆さま方とともに、この社業を継続していくこと、ならびに明るい未来を祈願してお届けしたい」と語った。